

施策評価表シート1

平成 28 年度

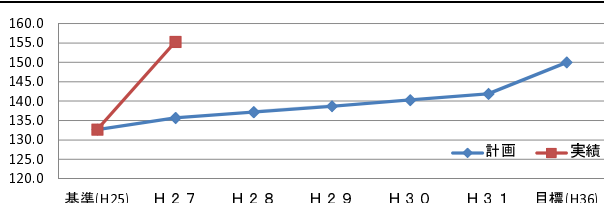
総合計画体系	分野	1	第1章	地域資源を活かして新たな賑わいと活力を創出するまち	施策統括課	水産振興課
	施策No.	6	施策名	特色ある水産業の振興	課長名 (施策統括責任者)	糸山 信一
	関係課	水産振興課、河川砂防課、南部建設事務所、選挙管理委員会				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	水産業者の所得が確保され、安定した経営がなされている。
取組方針	「佐賀海苔」ブランドの市場価値をいっそう向上させるための取組を支援します。また、漁業者の経営の安定化を図るとともに、漁協の長期的な経営方針の確立支援や漁場環境の保全に取り組みます。

2. 施策の意図と成果指標

対象(誰、何を対象としているのか)*人や自然資源等	水産業者						
意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	佐賀市の水産資源を活かして新たな賑わいと活力を創出する水産業者を育成していく。						
成果指標 A							単位
漁業生産額							億円
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標	
132.7	135.7 155.3	137.2	138.7	140.3	141.9	150.0	
成果指標 B							単位
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標	
成果指標 C							単位
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標	
成果指標 D							単位
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標	
成果指標 E							単位
H25 基準	H27 計画実績	H28 計画実績	H29 計画実績	H30 計画実績	H31 計画実績	H36 目標	



施策評価表シート2

3. 施策の前年度成果結果の振り返り

単年度目標の達成度	A. 達成している	左記評価の理由	平成27年度漁業生産額は目標値を上回った。
必要性(市民・社会ニーズ)	A. 増加している	左記評価の理由	安定した漁業活動を行うために、漁港や漁場の施設・機能の維持・補修等を求める声があつている。

4. 市民意向調査結果及び住民意見等

市民意向調査の結果				施策タイプ別	
施策の重要度		施策の満足度		タイプⅠ：優先して改善を要する施策	タイプⅡ：現状の水準を維持する施策
重要である	36.4%	満足している	3.0%	施策の重要度が高いが、満足度が低いもの	施策の重要度が高く、満足度も高いもの
ある程度重要である	49.3%	どちらかといえば満足	46.1%		
あまり重要ではない	6.3%	どちらかといえば不満	29.5%	タイプⅢ：検討を要する施策 施策の重要度が低く、満足度も低いもの	タイプⅣ：改善の必要性が低い施策 施策の重要度が低いが、満足度が高いもの
重要ではない	1.2%	不満である	5.1%		
21/36位		21/36位			

寄せられる意見や要望・その対応

(1)水産業者の安定した生産体制の確保のため、担い手の育成・確保と水産業経営環境の整備等への支援を行う。

5. 施策の課題

・ノリ業界は、かつての贈答用を中心とした高級品から、コンビニのおにぎりを中心とした業務用に大きくシフトした。今求められるノリは「質が良くて低価格」が主流である。こうした中、漁業経営体としては、家族経営と協業施設・共同加工場に分かれるが、海苔1枚当たりの単価が低迷する中、生産コストと労働力の削減が図られる協業施設・共同加工場への移行が求められている。

・また、漁協の合併効果を出す広域的な施設の連携等についても求められている。有明海の干満の差による浮泥が漁場及び漁港に堆積し、その除去のため、毎年多額の経費を要しており、行政、漁協の経費を圧迫している。

6. 課題解決のための今後の取り組み

- ・協業化の推進。
- ・各種補助事業を活用しての基盤整備・維持等を図っていく。